



大部っ子

大部小だより

令和4年7月

「やさしく かしこく たくましく」－自ら学び、共に生きる児童の育成－

文責：学校長



兵庫型学習システムについて

吉岡 優

1. これまでの兵庫県の取組（新学習システムの推進）

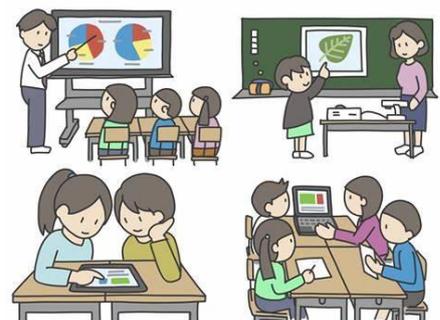
本県では、平成13年度から個に応じたきめ細かな指導や心の安定を図り、多面的な児童生徒理解に基づく指導など、児童生徒の個性や能力の伸長を図ることを目的とした「新学習システム」を推進してきました。具体的には①小学校1～4年生の35人学級編制、②中学校における少人数授業、③小学校5・6年生において、学級担任の交換授業による「教科担任制」と「少人数学習集団の編成」を組み合わせた「兵庫型教科担任制」などがありました。

取組後の調査では「中学校への円滑な接続（83.4%）」「学習意欲の向上（72.8%）」「多面的な児童理解に基づく生活指導（93.4%）」など、効果を実感する学校が増加していました。

2. 新しい学習システムの導入

昨年報道でも大きく取り上げられましたが、いわゆる[義務教育標準法](#)の改正により、「令和3年度から7年度にかけて、学年進行により現行の40人から35人に段階的に引き下げられ、小学校の全学年が35人学級編制となる」ことが決まりました。加えて、中教審答申（2021.3）で、「小学校高学年からの教科担任制を（令和4（2022）年度を目途に）本格的に導入する必要がある」と示され、さらに、「外国語、理科、算数及び体育について優先的に専科指導の対象とすべき教科」として示されました。

そこで、[令和3年度新学習システムあり方検討委員会の提言](#)に基づき、「すべての子ども達の可能性を引き出す指導の一層の充実を図るため、国の加配措置を最大限に活用し、各学校において「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善や、児童生徒の心の安定を図り多面的な理解に基づく指導を行う新たな学習システム（「兵庫型学習システム」）を段階的に導入する。（[兵庫県教委HP](#)より）」こととなりました。



3. 兵庫県の考え方

本年度から兵庫県では、「中教審答申及び提言に基づき、国の加配教員を最大限に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、児童生徒の心の安定を図り多面的な理解に基づく指導により、すべての子ども達の可能性を引き出す指導の一層の充実を図るため、新たな学習システム（「兵庫型学習システム」）を導入する」こととなりました。

そこで、「各学校において、『兵庫型学習システム』の趣旨や推進内容を十分に理解した上で、地域や学校の実情に応じた教育活動が展開され、本県教育が一層充実することを期待する。」と通知があったところです。

4. 本校の取り組み

以上を踏まえ、皆様もご存知のように本校では次のように特色ある取り組みをすでに実施しているところです。

【兵庫型学習システム】

- (1) 高学年の「国語・算数」は学級担任の交換授業による「教科担任制」
- (2) 「外国語（英語）」は旭丘中校区3小学校兼務の「教科担任制」
- (3) 「理科・音楽」は従来から「専科制」

【その他の指導・支援】

- (1) 児童支援教員による複数指導体制
- (2) SA, ALT, 子ども多文化共生サポーター, SSS, SC, SSW の配置

もちろん、小野市の脳科学の知見に基づいた「夢と希望の教育（第Ⅲ期：令和3年～）」、小野市型小中一貫教育（平成28年度～）を中核に据え、本校教育を推進していることを申し添えておきます。

日常を取り戻す大部小



コロナ禍に見舞われてはや三年。感染症対策の徹底を始め、ワクチン・治療法の更新などのおかげで日常を取り戻す社会の傾向が今世界的にみられます。本校も少しずつですが、＜日常＞を取り戻しつつあると実感しています。

では、6月の活動を振り返ります。①対面での児童朝会、②6年生プール掃除、③旭丘中8年生トライやる、④プール学習開始、⑤3年生加古川水生調

査、⑥5年生調理実習、⑦パチパチタイムなど座学だけでは学べない、体験からの学習でたくさんのことが学べたと思います。できれば、お家で話題にさせていただくと幸いです。